

コロンビア

主要データ

国名〔英名〕	コロンビア共和国〔Republic of Colombia〕
面積(km ²)	1,138,914
海岸線延長(km)	3,208
人口(百万人)	45.6
人口密度(人/km ²)	40.1
GDP(百万 US\$)	240,832
一人当たり GDP(US\$)	4,989
一人当たり銅使用量(kg/人)	0.1
主要鉱産物：鉱石(千 t)	ニッケル：41.6、金：34.3t
主要鉱産物：地金(千 t)	フェロ・ニッケル(Ni 純分)：41.6
鉱業管轄官庁	MME(エネルギー鉱山省：Ministerio de Minas Y Energia)
鉱業関連政府機関	INGEOMINAS (鉱山地質研究所)
鉱業法	鉱業法
ロイヤルティ	金、銀：4%、その他の金属：5%
外資法	外資 100%の開発が認められている。
環境規制法(環境影響評価制度、環境・排出基準の有無等)	採掘段階では、環境影響評価調査を環境当局に提出し、承認を受ける必要がある。(探鉱段階では必要なし)
鉱業公社	無し
鉱業活動中の民間企業	BHP Billiton 等
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・2008年2月下旬から1か月間、Cerro Matos ニッケル鉱山で労働ストが発生し、一時、生産がストップ。 ・最近、南部の先住民団体が生活環境の改善を要求して大規模なデモ行進を行うなど、地方住民の意識が高まってきている。 ・今後、金属資源開発が活発になれば、地域住民による反対運動が起こる可能性がある。
2008年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・MMEによると、金やベースメタルについて7か月の金属資源ポテンシャル地域が抽出されており、これら地域における2008年の投資額は約128百万US\$と推計 ・ポーフィリーカップー鉱床を対象とした探鉱活動が活発化する兆しにあり、大手非鉄企業が進出

1. 鉱業一般概況

コロンビアは、石炭、石油等エネルギー資源のほか、ニッケルをはじめとする金、銀、銅等の非鉄鉱物資源の賦存が知られている。

ニッケルは、同国北部のCordoba地域に位置するCerro Matoso 鉱山(BHP Billiton)で生産され、フェロ・ニッケルとして輸出されている。2008年のコロンビアにおけるニッケルの生産量は41.6千tであり、フェロ・ニッケルとして111.7千tが輸出された。

金については、その多くが砂金を対象にした

同国北西部のAntioquia地域での小規模事業者による採掘である。2008年の金の生産量は34.3tである。

鉱業環境としての治安状況は、政府の麻薬・テロ対策、警備強化により、石炭やフェロ・ニッケルを生産する北部地方は治安状況もよく、能率的な鉱業活動が行われている。しかし、南部国境地帯やアマゾン森林地帯では非合法武装集団が依然活動しており、また、コカの栽培地域であることから、鉱業開発の前提となる探査活動の制限されている。コロンビアのアンデス

山系は、ベースメタル資源のポテンシャルが高いと推定され、今後、更に治安状況が改善されれば、金属資源開発が活発になる可能性が高い。

2. 鉱業政策の主な動き

コロンビアは 2000 年に投資法を發布し、それまでの外国投資規制を撤廃し、外国投資は国内投資と同様の権利及び義務をもつこととなった。また、2006 年には 20 年間にわたる税の安定化契約の導入、税制改革の一環として所得税の減税措置 (38.5→33%) などが講じられた。現在も、一層の投資促進に向けて探鉱期限の延長、探鉱開発許可の簡素化、窓口一本化、環境対策や住民対策などの CSR の徹底等を図るべく鉱業法の一部改正が検討されている。

現在の鉱業政策のポイントは以下のとおり。

- ① 鉱業権は、単一ライセンス方式で探鉱期限 5 年 (延長 2 年含む)、開発期限 4 年、採掘期限 30 年。外資 100% の開発が

認められている。原則、先願方式で決定されるが、過去に国が調査を実施した地域に限り国際入札を実施。

- ② 採掘段階では、環境影響評価調査を環境当局に提出し、承認を受ける必要がある。(探鉱段階では必要なし)
- ③ 鉱業税制とは、所得税 33%、ロイヤルティは金・銀：4%、その他金属：5%、石炭：10% (ただし、年間生産量 300 万 t 以下は 5%)。
- ④ 政府機関 INGEOMINAS (鉱山地質研究所) の活動は、地質図幅の作成、基礎情報の整備、データベース化と鉱区管理、鉱業権の許認可に限定。
- ⑤ 先住民居住区での鉱業活動に対しては、マイノリティに対する権利を十分に考慮するべく企業の社会的責任を求めている。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要非鉄金属鉱石生産量

表 1. コロンビア：金属鉱石生産量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
ニッケル	51.1	49.3	41.6	-15.6
金(t)	15.7	15.5	34.3	121.3
銀(t)	8.4	9.8	9.2	-6.1
錫	0.5	0.5	0.5	0.0

(出典: Word Metal Statistics Yearbook 2009)

(2) 主要非鉄金属地金生産量

表 2. コロンビア：金属地金生産量

(単位：Ni 純分千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
フェロ・ニッケル	51.1	49.3	41.6	-15.6

(出典: Word Metal Statistics Yearbook 2009)

(3) 主要非鉄金属消費量

データ無し

(4) 主要非鉄金属輸出品

表 3. コロンビア：フェロ・ニッケル輸出品

(単位：千 t)

鉱 種	2006 年	2007 年	2008 年	2008 年増減比 (%)	主な輸出相手国
フェロ・ニッケル	140.6	134.6	117.7	-12.6	

(出典: Word Metal Statistics Yearbook 2009)

(5) 主要非鉄金属輸入品

データ無し

4. 鉱山・製錬所状況

コロンビア北部の Cordoba 地域に位置する同国唯一のニッケル鉱山で、フェロ・ニッケルと

してイタリア、スペイン等の欧州諸国及び韓国、日本等に全量を輸出している。

表 4. 鉱山一覧

(単位：千 t)

鉱山名	権益所有企業(権益：%)	鉱 種	2008 年生産量	備 考
Cerro Matoso	BHP Billiton	ニッケル	41.6	

(出典: Word Metal Statistics Yearbook 2009)

5. 我が国との関係

フェロ・ニッケルについては、2006 年には日本の総輸入量 44.7 千 t に対して 6.6 千 t と割合で 14.8%、2008 年には総輸入量 40.0 千 t

に対して 7.2 千 t と割合で 18%、いずれもニューカレドニアに次いで 2 位の主要輸入先となっている。

表 5. コロンビアの日本へのフェロ・ニッケル輸出品

(単位：千 t)

鉱 種	2006 年	2007 年	2008 年	2008/2007 (%)
フェロ・ニッケル	6.6	8.8	7.2	81.8

(出典：日本貿易月表)

6. その他トピックス

特に無し

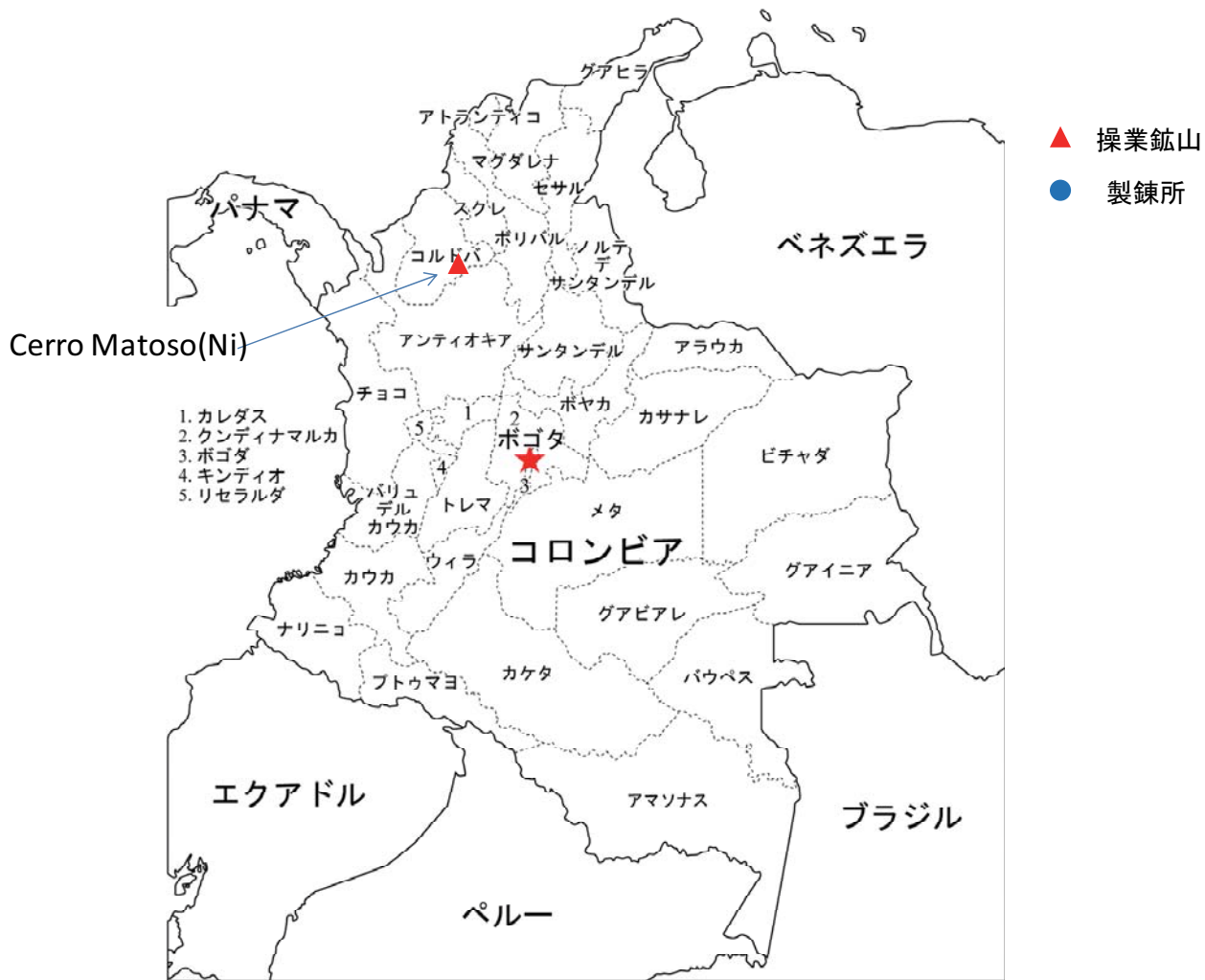


図1. コロンビアの主要鉱山位置図

(2009. 8. 14/リマ事務所 山内英生)